

超高級な朝食はいかがかな、 自分を見失った愚鈍

2020年4月
石原勝巳氏の随筆を転記

昨年インドネシアに2回（1月、11月）にわたって旅をしました。

1回目は友人と二人で、2回目は得意技の孤独旅でした。そのうち2回目の旅は特別な意味を持ったものになりました。

その特別の意味とは何の謂（いひ）ぞやですが、自然現象には克てないということを痛感したことです。そして、経験則上これほど高価な朝食（1万円以上）を摂ったこともなかったことがひとつです。具体的にはこうです。私はいつものように今話題の高速バスに乗車して関西国際空港まで行ったのです。そして最期のご飯という意味で、いつもの和食の店で朝食を摂り代金を支払い、いつものようにチェックカウンターで手続きをし、航空券を取得したところまでは順調（ゴー・ウェル）そのものでした。

ところがです。搭乗予定のガルーダ機の出発時間が10時間後と案内されたからたまりません。その日のうちに飛べるのであれば待つ覚悟でした。数時間後に飛ばない（インドネシア機が向こうの空港に待機したままですから）のでキャンセルになるという案内が旅行社（天下の日本交通公社）からあり、旅行代金も全額返還するというのでした。重い想いを持った荷物を担ぎ自宅にあえなく戻ったというわけです。つまり関空まで行って朝食を摂ったという旅になったしだいです。飛行機が飛ばない理由はバリ島の隣島のロンボク島の火山（リンジャニ山という3700メートル級の火山）が爆発し、噴煙がバリ上空までたちこめて視界不良で足止めになっている（後日、俳優の渡辺謙夫妻も向こうの空港で足止めされているという記事に接する。）ということでした。

ちなみに、日本でも近年火山が「御嶽山」をはじめとし、いたるところで不気味に爆発鳴動していますので、環太平洋火山帯は間違いなく存在するし、いつ山の神の怒りが爆発してもおかしくないという思いでした。

しかし、こんなことではへこたれません。小生は意を決して、再度10日後にインドネシアに旅立ちました。そのときは件の噴火の影響は全くなく、予定時刻に出発し現地空港に到着しました。

滞在中は、どうしても見たかったコーヒー農園を見て回ったり、友人宅のリフォームの進捗状況を視察したり、美術館めぐりや砂湯に入ったりしてゆったりと時間（レセハンな時

間)を過ごしていました。而(しか)して快適な時間は光陰矢のごとく過ぎ去り、最期の最後で、つまり出国の際に恐ろしい出来事(テロではありません)に遭遇したのです。10分程度でしたが、その間天は遂に我を喪(ほろ)ぼしたかと哭声(こくせい)を上げてしまいました。

手荷物検査(最近はこのがやたらテロ対策で嚴重になった印象)で、かなり時間を要してしまい、その間に命の次に大切な旅券(パスポート)を見失ってしまったのです。

身の回りを探してもどこにも見あたりません。数十秒前まで手に握持(あくじ)していたものがなぜ見あたらないのだろう。そのとき誰かに盗取(とうしゅ)されてしまったかと最悪の事態がよぎったわけです。このままだと、故国か母国かどうでもよいが日本国に帰れなくなってしまうのだろうか。それならそれもよかろうと想いつつ、おぼれる者藁をもつかむ思いで、係官に尋ねた(インドネシア語には通じていると確信している)ところ、あなたの旅券はこれかと言われたのです。賄賂も要求されずにです。直に手に取って確認したところ間違いなく小生のパスポート(語彙的には港を通過するという意味ですが、小生の場合は荷物検査をやったの思いでパスしたので、気分的にポーとしてしまっていたのであろうと以我的解釈をしたと思います)であったので、我はまだ見捨てられてはいない。救いの神は確かにあった。ありがたやと思いつつ、搭乗口に到達したときは冷や汗もので、慌て者の己を苛烈に批判反求(はんきゅう)していました。

以上のような次第で、2回目の旅はこれまで30回近い旅経験のなかで極めて稀有なことがおこった奇異なる異常な旅となってしまいました。

(注)

何の謂ぞや(なんのいひぞや)： どういう意味か

而して(しかして)： それから

哭声(こくせい)： 泣き叫ぶ声のこと

握持(あくじ)： 手に握って持っていること

盗取(とうしゅ)： 盗み取ること

以我的： 自分さえよければ他人はどうでもよいとする極端な思想

反求(はんきゅう)： 原因を自分に求めて責めること